

島根県

防災安全講演会 （災害ボランティアセミナー in 島根） 開催報告

令和3年1月25日（月）島根県及び当協会主催による「防災安全講演会」災害ボランティアセミナー」をWEB配信方式により開催しました。

セミナーでは第一部として同志社大学社会学部教授の立木茂雄氏を講師に招き「だれ一人取り残さない防災に向けて、福祉関係者が身につけるべきこと」という演題で講演していただきました。

また第二部として、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之氏から「シニア世代ができる災害ボランティア活動」と題した講演が行われました。

講演1

だれ一人取り残さない
防災に向けて、
福祉関係者が身につけるべきこと

同志社大学社会学部

教授 立木茂雄氏

PROFILE

兵庫県生まれ。昭和53年、関西学院大学社会学部卒。同研究科修士課程修了後、カナダ政府給費留学生としてトロント大学大学院に留学。同博士課程修了。平成13より現職。専門は福祉防災学、家族研究、市民社会論。大災害からの長期的な生活復興過程の解明や、災害時要援護者支援のあり方など、社会現象としての災害に対する防災学を研究。阪神・淡路大震災では、学生ボランティアのマネジメントから政策・施策の提言活動まで長期的な支援を続け、東日本大震災では、宮城県名取市で生活再建支援に関わっている。令和2年、防災功労者防災担当大臣表彰。



だれ一人取り残さない防災に向けて、
福祉関係者が身につけるべきこと

同志社大学 社会学部教授
立木 茂雄

講演2

シニア世代ができる
災害ボランティア活動

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

代表理事 栗田暢之氏

PROFILE

平成7年阪神・淡路大震災時に当時勤務していた大学の学生コーディネーターとして被災者支援にあたったことを契機に、同年7月に設立したボランティア団体「震災から学ぶボランティアネットの会」の事務局長に就任。平成14年に同会を発展的に解消して「特定非営利活動法人レスキューストックヤード」が認証され、同法人の常務理事兼事務局長を経て現在に至る。現在までに約50カ所の地震・水害・噴火等の被災地で支援活動を行う一方、災害に強いまちづくりや人づくりの各種事業にも多く携わる。国や自治体などの防災や災害ボランティア等に関する各種委員会の委員も歴任。



シニア世代ができる
災害ボランティア活動



※写真は、2018年7月、日本豪雨による山梨県飯倉町の被災状況

震災がつかぬ全国ネットワーク(震つな)代表
東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)幹事
愛知県被災者支援センター長
東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや運営委員
NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)代表理事
認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY)代表理事
栗田暢之